

平成24年度適正利用・エコツーリズム検討会議
 第1回知床エコツーリズム戦略起草部会
 議事要旨（案）

◇日時 平成25年1月16日（水） 13:00-16:00

◇場所 斜里町公民館ゆめホール知床 会議室1・2

◇会議次第

開会

あいさつ

議事

1. 知床エコツーリズム戦略(案)の試行について
2. 知床エコツーリズム戦略の事務取扱要領の検討について
3. その他

閉会

◇議事要旨

【 開会 】 環境省 ウトロ自然保護官事務所 野川

【 あいさつ 】 (敷田座長)

- ・昨年10月5日に平成24年度第1回の適正利用エコツーリズム検討会議を開き、初めて皆様から3件の提案をいただき実質的な試行がスタートしている。
- ・実際の手続きや手順をいくつか決定する為に、忌憚ない意見をいただきたい。
- ・知床世界自然遺産の賢明な利用に結びつく会議であるので、今後とも積極的に参加をお願いします。
- ・進行及び資料の準備等に関しては、今まで通り環境省、林野庁、北海道庁、専門家もサポートするが、検討会議の検討は皆さんが主役である。

■ 1. 知床エコツーリズム戦略（案）の試行について

資料0 第1回知床エコツーリズム戦略起草部会の進め方

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・資料0について説明。
- ・現在知床エコツーリズム戦略は案ということになっているが、実際活用して振り返りを行うことで、企画、調整、実行をより円滑に進めるためのアイデアを広く募り進めたい。
- ・提案から実施までの事務手続き関係について、本日頂いた意見を事務局がまとめ、事務取扱要領を作成し、次回の検討会議の際に案として提出する。
- ・知床エコツーリズム戦略案についても、必要に応じ加筆修正するので意見があればい

ただきたい。

- ・本日は、3つの個別部会の経過報告をいただいたのち、3グループに分かれてワークショップ形式により、試行による部会運営やこれから想定される企画等を例にグループ討議をする。
- ・グループ討議は、各個別部会のこれまでの過程などに関して、提案から部会の設置、部会の運営に関しての、改善点や整理が必要な項目について意見を頂きたい。

資料 1-1 知床五湖冬季利用促進事業運営状況について

(斜里町観光協会 新村)

- ・資料 1 - 1 について説明。
- ・知床五湖冬季利用促進事業は、10月5日に第1回適正利用エコツーリズム検討会議において部会設置を承認いただき、第1回部会に向けての検討事項について事務局で確認調整中である。
- ・行政機関の協力を得ながら事業主体、受益者負担による除雪を含む運営体制ができるかの検討を行う。
- ・世界自然遺産地域らしい観光利用について検討を行う。
- ・自然の価値を守りながら、ガイドという地域の人材資源の活用、旧開拓地という文化的資源の活用など、滞在資源の活用を可能にしたい。
- ・事業実施主体、受益者、利用者の責任、コスト負担に関する整理を行い、新たな知床の利用方法の検討を行う。
- ・斜里町観光協会では、過去4年間の事業実施にあたり、自然環境への影響についてモニタリング調査を行なっている。
- ・今後のスケジュールは、2月上旬に第1回部会を開催し、2月中旬に現地視察を予定。意見集約、関係者との意見交換を経て、2月下旬の第2回部会で実施計画案について検討し、第2回適正利用・エコツーリズム検討会議で承認を得たい。

(斜里山岳会 遠山)

- ・10月5日の第1回適正利用・エコツーリズム検討会議の際に、この部会の構成メンバーに知床自然保護協会を入れるべきという提案があり承認されたはずである。

(斜里町観光協会 新村)

- ・漏れていて申し訳ない。

(斜里山岳会 滝澤)

- ・冬季利用するかどうかの根本的な議論をしていくという部分も、検討事項から抜けていると思う。

(斜里町観光協会 新村)

- ・承知した。

資料 1-2 知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画部会 部会運営状況について

(斜里町観光協会 新村)

- ・資料 1-2 について説明。
- ・部会構成メンバーについては、斜里警察署を加え、運営補助として環境コンサルタントが参加している。
- ・参画を期待する関係団体との打ち合わせを斜里町観光協会、環境省で実施し、キャンペーンの対象をヒグマにすることについて概ね了解を得た。
- ・第 1 回の部会開催までに、2 回の事務局会議を実施し関係者と打ち合わせを行った。
- ・間野委員、財団スタッフの助言を得て資料を作成した。
- ・1 月 2 7 日に開催した第 1 回部会では、部会の目標、活動・対象範囲の確認、部会名称の決定、自由討議において実施するメニュー、アイデアについての意見交換を行った。
- ・1 月 2 1 0 日に第 3 回事務局会議を行い、第 1 回部会のまとめを事務局三者で確認をし、第 2 回部会に向けた進め方について確認した。
- ・ステッカーの作成や活動等について企画を立て実施して行く。
- ・ステッカーデザインの検討については 1 月 1 1 日に行い、活動メニュー・企画の具体化を進めている。
- ・今後は、1 月 2 1 日に知床斜里町観光協会ウトロ部会にて企画検討をし、2 月中に企画案について関係者と意見交換、第 2 回部会の実施を経て、3 月 1 日の第 2 回の適正利用エコツーリズム検討会議にて企画内容の討議をしていただく予定である。

(羅臼町 田澤)

- ・3 つの部会の内、何故この部会だけ事務局に環境省が入り、事業委託を行なっているのか。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・環境省では今期の状況から何らかのヒグマ対策を行わなければいけないと準備を進めていたところであり、斜里町観光協会からの提案に対し主旨が一致したことから参加させていただくこととした。

(知床自然保護協会 綾野)

- ・キャンペーンの対象をヒグマにすることは検討した結果であるのか。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・内容については、第 2 回適正利用・エコツーリズム検討会議の際に審議いただくが、一番効果的なキャンペーンとするために、部会内で皆さんと検討した結果である。

(座長)

- ・キャンペーンの対象をヒグマにすることについては、1 0 月 5 日開催の第 1 回適正利用・エコツーリズム検討会議でも、かなり意見が交換された。
- ・他の野生生物へのエサやり問題の指摘もあるが、現在試行段階であることや、関係者

の範囲が大きい部会を、皆さんがいきなり運営するのは大変であるため、ヒグマに限定したと記憶している。

資料 1-3 知床沼部会 部会運営状況について

(羅臼町 田澤)

- ・資料 1 - 3 について説明。
- ・有識者の石川委員は、電話ヒアリングで参加していただいた。
- ・10月30日に第1回関係機関打合せを行い、部会の運営について検討し、11月30日に第2回関係機関打合せを行い、部会の具体的な進め方、役割分担等について検討した。
- ・第2回関係機関打合せ後、最終議案を羅臼町が印刷し、羅臼山岳会がメールで各構成員に送付した。
- ・12月6日に第1回知床沼部会を開催し、現地作業やモニタリングは関係機関の協力を得て山岳会が実施し、結果の確認作業は山岳会、羅臼町、環境省、森林管理署が実施することとした。
- ・野営設定地の見直しは、利用人数だけでなく、利用の状況全般を見て検討する。
- ・提案のまとめである資料4について、部会での意見を反映させ改訂した上で3月開催の第2回適正利用・エコツーリズム検討会議に提出する。
- ・現段階では、提出前に各構成員に事前確認をする作業が残っている状況である。

■ 2. 知床エコツーリズム戦略の事務取扱要領の検討について

資料 2-1 知床エコツーリズム戦略 事務取扱要領の作成について

(釧路自然環境事務所 三宅)

- ・資料 2 - 1 について説明。
- ・これより3班に別れてワークショップ形式で、色々なご意見や提案をしていただく。
- ・知床エコツーリズム戦略案ができ、基本的な議論の進め方については決まっているが、細かい部分について本日議論をお願いする。
- ・必要があれば戦略本体についての意見もいただきたい。
- ・事務取扱要領を作成する目的は、地域の関係団体の皆さんが、より戦略を使いやすくするためであり、行政担当者もマニュアルとして活用する。
- ・事務取扱要領に記載する内容について意見をいただき、本日の結果を踏まえて3月開催の第2回適正利用・エコツーリズム検討会議で決定したい。
- ・提案者の役割や、個別部会等の組織、部会の将来的な取扱い等についてを中心に議論をお願いする。
- ・提案の様式について、資料 2 - 2 を用いて説明。

(座長)

- ・様式1の先頭にある「キャッチコピー」という部分について補足する。
- ・知床エコツーリズム戦略の目的の中には、エコツーリズムを含む観光利用を、自然を上手に使いながら価値を上げて行こうということが設定されている。
- ・知床エコツーリズム戦略は、保護・保全だけが目的ではないため、広い範囲の方がこの提案を目にした時に、内容がわかりやすいことが重要である。
- ・キャッチコピーは、おもしろおかしくするという意味ではなく、提案をわかりやすく説明するための手助けになれば良い。

(釧路自然環境事務所 三宅)

- ・1班は主に海域関係の方を中心に集まっていたため、ウトロ海域の議論の経過などを含めた議論をお願いしたい。
- ・2班は山岳利用関係の方を中心に集まっていたため、知床沼の提案を含めた議論をお願いしたい。
- ・3班は知床五湖関係の方を中心に集まっていたため、知床五湖を想定した利用も含めた議論をお願いしたい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・班に分かれてグループ討議・・・・・・・・・・・・・・・・

◆各班の意見について説明。

◇グループ討議の結果 1班

(釧路自然環境事務所 野川)

【提案の作成】

- ・提案の窓口（役場）で、提案の文章化を上手くサポートしてくれるような体制が必要。
- ・資料2-2の提案様式は記入に必要な項目が整理されており有効である。

【提案の受付】

- ・提案の受け入れは、基本的に法律に触れるもの以外は受け入れをする。
- ・提案が多数あった場合は、決められるものを優先して受け付ける。
- ・提案書は、内容を良く把握するためにも、十分な期間を持って事前発送してほしい。

【承認の期間】

- ・提案から承認のスピードを上げて欲しい。
- ・時間がかかる提案も前進させて欲しい。
- ・提案から実行の承認までの期限は、次の検討会議までの半年を基本とし、状況により議論が延びる場合は、1年まで延長可能とする。

【再承認方法】

- ・多数決にするのか。少数の中で決めて良いのか。
- ・全会一致の場合、良い意見が少数で却下される場合がある。
- ・承認を受ける検討会議の前に部会の中で利害関係者の調整を取る。

- ・利害関係者の調整ができていない部会の活動方針について、検討会議構成員は条件をつけ承認する形になるのではないかと、試行的に数年実施して再度見直し等が考えられる。
- ・検討会議において、部会の活動方針について、条件つきであっても承認できない場合は、部会に差し戻し再度議論をする仕組みが良い。

【部会の扱う範囲】

- ・観光客と野生動物の付き合い方のような、大きな問題の場合は、個別部会ではなく、検討会議で議論するのが良い。

◇グループ討議の結果 2班

(北海道森林管理局 梶岡)

【提案の作成、提案の受付】

- ・今後の提案受付は、フィルターをかける等のルール化が必要である。
- ・役場との関係が薄い場合に、丁寧な対応をするためのルール化が必要である。
- ・サポート体制により運営が左右される可能性があるため整理すべき。
- ・受付や提案の際に必要な法的なフィルターの掛け方を整理すべき。
- ・検討会議の能力上、提案件数の上限設定をする必要がある。
- ・提案の戦術についての方向性がわかる様式があれば良い。

【部会設置承認】

- ・提案は基本的に窓口では選別せず、適正利用・エコツアーリズム検討会議で、全ての提案についてプレゼンテーションした後に、内容について検討し、あらかじめ決定しておいた部会設置件数を承認する。
- ・優先順位を決めて部会設置をし、次年度の部会設置も決めておく。

【承認の期間】

- ・部会設置後に議論がまとまらず、次の検討会議での承認が不可能な場合は、部会をそれ以降引き継がない。
- ・提案の際に、承認までのスケジュールを示す。

【経費負担】

- ・印刷代、専門家の旅費や謝金などは都度考える必要がある。
- ・部会設置にあたっての経費がハードルとなる。
- ・提案の締め切りから次の検討会議までの間に、関係者が集まり検討する会議や手続きがあれば良い。

◇グループ討議の結果 3班

(釧路自然環境事務所 三宅)

【提案の作成、提案の受付】

- ・提案内容の方向性が一致していなければ、役場や行政機関のサポートが受けられない

のではないか。

- ・提案受付時に、役場では法律の適用範囲など、実行可能な範囲を示してもらいたい。
- また、提案内容をある程度実行可能な範囲に誘導して欲しい。
- ・組織だけでなく個人として提案できることは良いことである。
- ・提案の募集は随時受付し、それについて定期的に周知する。提案の審議は年2回の検討会議で良い。
- ・提案の募集方法は、インターネット等を活用するなどの工夫が必要である。
- ・戦略で何を募集しているのかが解りづらい。
- ・今回の試行結果を踏まえて、今後は提案しやすくなる。
- ・提案様式に記載例があると提案しやすくなる。
- ・提案内容が不十分であれば、部会設置の承認の前に再提案ということもあり得るだろう。
- ・提案者は、行政機関等の協力を得て、提案に関わる文献等を収集すべきである。

【部会設置承認】

- ・部会設置の承認時点で、法律や制度についての審査があれば良い。

【専門家の関与】

- ・部会設置承認から部会の開催までに、専門家の意見を聞くべきである。
- ・地元関係者だけの議論が無駄にならないように、検討初期の段階で専門家の意見を確認すべきである。
- ・部会には可能な限り専門家に参加してもらう方が望ましい。
- ・専門家の招致については旅費の問題があるため、電話ヒアリングにするなど個別に検討する必要がある。
- ・専門家の選出は、適正利用・エコツーリズム検討会議で挙げてもらう。

【部会運営の実行体制】

- ・部会運営に係わる労力が多大である場合、事前調整、議事録作成等を行政機関等の中立的な立場の人に行なってもらえると運営が進む。
- ・検討会議で議論した後、実行面での予算の有無など、実行体制が不透明。

【戦略に対する意見】

- ・遺産地域の適正利用を進める上で、法律や心得等を守らない人への対応をどうするのか。戦略の枠組みでは解決できない課題がある。
- ・知床エコツーリズム戦略を作ったことによって、地域の関係団体が提案する場合、部会運営などを担わなければならないことを考えると発言しづらくなった。
- ・観光客のアイデアなど、広範囲な意見・要望を集約できる場があれば良い。
- ・提案するメリットが解りにくい。

◆全体まとめ

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・それぞれの班の意見は、重複する部分と、今後調整する部分がある。
- ・2班では、部会設置から承認までの議論する期間について、あらかじめ決めておくべきだという意見があり、1班では、部会は半年単位、短期間勝負でやるべきという意見があった。
- ・1班では、受付窓口である役場はサポートするのが前提で、法に触れるもの以外は受け入れるという意見があり、3班では、実行可能なものになるよう役場がサポートするという意見があった。

(座長)

- ・議論をしても決定しない原因は、期間を決めて議論をしないことに一因がある。
- ・部会設置承認から次の検討会議が開催される半年後までに、部会での議論を終えることを原則とし、延長はその後半年とする。部会設置承認から1年以上経過しても議論を終えることができなければ、提案は自動消滅となり再提案をしてもらう。

(北海道森林管理局 梶岡)

- ・2班では、議論に時間がかかりそうな提案の場合は、提案時に部会進行計画の説明を含めてはどうかという意見が出た。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・1班では、大きすぎる課題については、個別部会ではなく適正利用・エコツーリズム検討会議で長くやるべきであるという意見が出た。
- ・提案内容を実行可能な範囲にしていくという、3班の意見について補足願う。

(釧路自然環境事務所 三宅)

- ・斜里町観光協会さんでは、知床五湖冬季利用促進事業の提案について、役場と相談してから提案を作ったことで、スムーズに受付できたという経緯があり、他の提案についても、実現可能なラインを役場と相談できればありがたいという話が出ていた。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・斜里町観光協会さんでは、上手く進めるためにはその方が良いと考えたのか。

(斜里町観光協会 新村)

- ・そうである。

(中川委員)

- ・提案窓口である役場が、サポートするのは勿論だが、フィルターを掛けて折角の提案を潰すことになってはいけない。
- ・提案窓口である役場が、提案者の主旨をきちんと把握し、それに則ったサポートをするのが原則である。
- ・役場の考えによっては、提案者がサポートを受けることで、提案者の主旨と方向がずれていくことも考えられる。

- ・提案者は、役場や環境省にサポートしてもらいながらも、主導権を握り、主旨を潰されたり、歪められない覚悟が必要である。

- ・サポートにも限界がある。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・中立的立場のサポートの話が出ていたと思うが、それは知床財団さんがやるということか。

(知床財団 寺山)

- ・あり得る話しであるが、知床財団としても全くの中立という立場は難しいだろう。

(座長)

- ・提案内容については、好みや主義主張と合わない、提案者の以前の主張と矛盾していると感じている方もいると思う。

- ・この仕組みの1番良いところは、良いアイデアだと思ったことを気軽に提案できるというところにある。

- ・手続き等のお手伝いをする方は、極力徹してやっていただきたいし、まず皆で話しをすれば良いという考えで提案していただきたい。

- ・突飛的なものが出てくる恐れもあるが、皆さんの持っているアイデアや知恵を実現するためには、最初に表明することにウエイトを置いて頂きたい。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・本日の様々な意見を事務局で整理し、第2回適正利用・エコツーリズム検討会議までに事務取扱要領を作成する。

- ・第2回適正利用・エコツーリズム検討会議は3月1日に開催するので、後ほど案内状を発送する。

(釧路自然環境事務所 中山)

- ・本日は、グループ討議の一つに入って話しを聞いたが、大きな会議とは違う話しやすい雰囲気であったため、色々なご意見が聞けた。

- ・知床エコツーリズム戦略は、地元の発意を形に変えるための仕組みである。

- ・これからも皆さんの忌憚ない意見が反映される形で知床のエコツーリズムや適正利用を進めて行きたい。

(閉会)

◇グループ討議カード一覧

1班	敷田委員、岡崎、石見、浜田、神尾、長谷川、角田、岡田、遠山（羅臼町）、北谷、宮部、佐藤、野川、南
(1)	提案のとき課題・障害により受け入れられないケースがある
(2)	提案に対してアドバイザー的な人の進言があればよい
(3)	役場は提案作成に関しサポートする
(4)	様式は有効←提案
(5)	提案は法律に触れるもの以外は受け入れする
(6)	決められるものを優先する
(7)	提案承認の明確なルールづくりが必要
(8)	提案の承認は、どのレベルで承認されるのか
(9)	提案承認のスピードをあげてほしい
(10)	時間がかかっても提案を前進させて欲しい
(11)	提案の半年後が承認の目安
(12)	承認はケースバイケースの場合もある。（多数決もあり、少人数でも有識者の意見尊重など）→判断・ジャッジの仕方・方法
(13)	良い意見が少数で却下される場合があるのではないか
(14)	事務局 部会-中立的立場を守れる議論の本筋を外さない利害関係者の調整←役場の方
(15)	部会で承認されない事案でも条件付きで状況・状態を見て行けるようにする
(16)	テーマが大きすぎるものは本体会議で
(17)	提案書を十分な期間をもって事前に配布
(18)	文章でなく提案を聞きとる
(19)	世界遺産の管理体制強化する必要 権限のある者-指導できる者が必要 監視する者⇔違法者
(20)	地元観光協会・役場→世界遺産管理や巡視体制の強化など地元の意見を聞き、今後の管理計画を作成する
(21)	1対1の問題等、検討会議からの要望、要請として決める
(22)	自主ルールが守られない場合がある→罰則をきっちり適用する必要がある
(23)	モニタリングで提案内容の状況を判断=（今後の承認に向け）する場合もある
(24)	なにが実施したいのかを提案者だけでなく関係者もわかっている必要がある

(25)	環境省実行体制人数が少ないのでは 職員不足-世界遺産の割りには→地域の方の協力必要
(26)	自主ルールの改定は提案がなくても可能ではないか

2班	小林委員、佐々木、金澤、秋葉、遠山（斜里山岳会）、滝澤、渡辺、高橋、田澤、中山、井上、梶岡、石崎
(1)	窓口としてどこまで対応すべきかのルールが必要（フィルター）
(2)	フィルターのかけ方については整理する必要あり
(3)	役場と関係が薄い提案者の場合は、丁寧な対応が必要
(4)	サポート体制によって運営が左右される
(5)	提案の受付については、概ねスムーズにできた ただ、印刷代など細かい点は都度考える必要があるかもしれない 先生 経費
(6)	提案にあたっては経費もハードルとなる
(7)	様式1. 2は良い（ダラダラ書くべきではないので）
(8)	受付～第1回検討会議時に関係者が集まって内容を検討する手続きが必要（←事案上の承認になるのは…？）
(9)	場合によっては、討議の経過を発信する設計もありかもしれない
(10)	会議の能力上、提案件数の上限設定が必要になるかもしれない
(11)	提案は基本的に選別せず、検討会議でフィルターをかけてはどうか （みんなで検討している雰囲気がでる）
(12)	「戦術」と「戦略」の区別がチェックできる様式であればよい

3班	中川委員、新村、池上、寺山、綾野、五郎川、笠井、栗谷川、鈴木、三宅、木村
(1)	役場との調整について、提案者と最初の窓口（役場）で考えが一致しないと、その後のサポート体制が不安
(2)	提案前の役場（窓口）との調整◎ 実行可能な範囲に誘導してもらう
(3)	一個人としても提案できるのは◎ でもその後の周りのサポートがないと実行困難か
(4)	募集は随時（いつも）受付が良い でも周知は必要
(5)	募集方法（インターネット等）
(6)	そもそも何を募集しているのか分からなかった
(7)	提案様式の記載例があった方が分かりやすい

(8)	専門家の意見・コメントはもらうべき（必ずしも部会に出席できなくても） 検討の途中の議論を無駄にしないように
(9)	部会に専門家は呼んだほうが良いが、その前に調査報告や文献などを調べるべき ←行政機関が協力して提供
(10)	専門家としてどなたにお願いすれば良いのか分からない可能性←検討会議で挙げ てもらおう◎ 旅費の問題
(11)	部会開催にかかる労力
(12)	部会の事前調整の労力 マンパワー
(13)	提案者と役場で考えが異なる場合のその後のサポートの差 →中立な立場でサポートしてくれる人がいると良い
(14)	戦略からはずれる課題がある
(15)	戦略を提案してルールを作っても、守らない人はいる 実行体制が伴わない管理体制
(16)	実質的には戦略提案が困難な、旅行者等の人たちのアイデアを拾いあげられる ように
(17)	戦略の実行体制 【予算】
(18)	戦略に提案することのメリットが分かりづらい